

県本部主催

中国七日間の旅

一色B支部 市川邦風

去る8月11日から17日の七日間、神奈川県本部所属の総員21名にて中国の各地を旅行して参りました。

加藤岳相先生のお誘いを受け、またちようど会社の夏期休暇を利用し、十年振りの海外旅行でした。詩吟を初めて九年間、数々の漢詩との出会いの中で、漢詩の生まれた中国に対する望郷の想いに似たものが積み重なったのでしょうか、雄大で華麗な李白の世界、そして杜甫の世界に興味が出てきたのでしょうか、この数年間、中国に対する片思いが、今回の旅行を通じて実現しました。

上海を基点として、景德鎮には上海から約13時間の夜行寝台列車に乗ってたどり着きました。随・唐時代から皇帝への献上品として、且つ、貴重な輸出品としての産地は、日本ではキューボラの町でも既に見る事のない黒煙を吹き出す多くの煙突が遠望されつつ、次第に町の中へ近づいて行きました。ろくろは電動ではなく、昔の伝統を守る為に、人力を使

っており、そこで働く20才の若者の月給は日本の約10分の1位との事。公害問題はどうかののだろうか、素朴な疑問は、この若者の給与の額から考えると、解決されるまでに、気の遠くなるような年月が必要なようです。

黄山は国連に於て、世界十大自然文化遺産目録に編入され、公衆からも「中国随一の山岳風景」と稱される海拔一、八〇〇米に位置する「雲と霧の里」とも呼ばれ、一年中の250日は霧雲がたちこめ、山中の群峰は峻険で秀美、怪奇な姿を見せていました。中国の観光の名所として、桂林の次は、この黄山との事です。私達が利用したロープウエーの下を通る山路には我々の投宿したホテルで利用する消耗品を運ぶ「強力」が米粒大の大きさで見えると共に、彼等の汗の上に観光が成り立っている感を深めました。

全行程を通じて皆さん大変お元気で明るく、一番若い私は、約20年後の自分の姿をダブらせるかと、皆さんの若さとバイタリテイから教示される事の多い旅行でした。

景德鎮から黄山はバスで約7時間、我々の専用バスが残す土煙りの中を、母親と共に大八車を黙々と曳く親子の姿がありました。次

のオリンピックではこの親子の中国を応援します。21世紀は中国の時代になる筈だから。

県本部主催吟行会

道東一周パノラマの旅

(一日目)

村田潜岳

道東旅行参加の108名を乗せた飛行機は旭川に着き、早速バスに乗り込み、どこまでも続く直線道路を走り層雲峡に向う。石狩川が浸食してつくりあげた大峽谷、柱状節理の絶壁が兩岸に続き、あちらこちらの崖から幾筋もの滝となり、流星の滝、銀河の滝などがしぶきをあげ、大函小函の奇岩がそそり立ち、思わず息をのむ。温根湯で一泊。

(二日目)

温根湯を出たバスは「君の名は」でおなじみの美幌峠に向う。バスの行手は行けども行けども直線で、北海道の広さを感じます。両側は一面の牧草で、山々は白樺の白の中に黄や紅の葉がまじって、紅葉が私達を名残惜しげに待ってくれていました。美幌峠にはクマ笹(笹が九枚あるので)が一面に茂り、展望

台からは屈斜路湖が望め、壮大な眺めである。標津を経て野付半島に行く。天氣がよくて、行く手に国後島を見た時は「千島慕情」を思い、感慨深く思わず口ずさむ。海水の浸水で枯れたトドマツが黒褐色の幹だけとなり、荒涼とした風景が、一層殺伐とした気持ちにさせる。国後島をあとにして羅臼に向かう。

(二日目)

羅臼をたつて網走へ。天都山の展望閣で網走市街、網走湖、能取湖、湧沸湖、そしてオホーツク海などが見渡せ、美しい紅葉と共にうっとり立止まる。網走博物館は明治23年、網走刑務所が作られ、千二百人もの囚人が送り込まれた当時のままに残したもので、悪い事をしたとは言え、非人間的扱いを受けたとのガイドさんの話に、思わずおそろしい時代を思いおこし、背筋がゾクツとする思いです。硫黄山はモクモクと白い煙をはき出しており、日も落ちかけた空に丸い月が美しく出ており、寒くなってきました。川湯にて疲れをとり床につく。

(四日目)

最後の日となってしまいました。霧の摩周湖には霧がなく、すばらしい景色にうっとり。

阿寒湖では湖上遊覧、悲恋秘藻の悲しい物語りを聞き、神秘的な湖を船はゆっくり進んで行きます。流水館では流水体験室などあり、冬のオホーツク海を味わいました。釧路湿原国立公園では、展望台より四方に広がる湿原に集まる鳥達の姿を思い、丹頂鶴自然公園では、仲睦まじい夫婦の鶴が保護されており、赤い帽子をチヨコンと頭にのせ、美しい姿を私達に見せてはくれましたが、羽を切られて飛べない様にしてあると聞いては、何か哀れにも見えました。

四日間の旅を終え、お天気はどうか、寒いかしらと案じていたことが無駄となり、すばらしい天気にも恵まれ、事故もなく、無事に帰宅出来ましたことを皆様と共に喜びあい、お世話下さった先生方に厚く御礼申し上げます。来年は青森大会とか、又御一緒にいたしましよう。

北海道吟行会の旅・三目

大船B支部 森田嶺岳

半年前から楽しみにしていた北海道吟行会がついに来た。心配していた天候も、一日目二日目とも良い天気にも恵まれ、三日目は朝か

ら上天気。羅臼ホテルを朝八時出発。釧北峠の残り少ない紅葉を愛でながら斜里へ。車中から原生花園を見物、オホーツク海の見晴台で国後島北方領土を涙で眺め、野付知床半島をひた走り、網走市内で昼食。買物を楽しみ天都山へと向う。展望台から北海道ならではの自然原生林や、白樺林、ダケカンバ等を見る。

玉葱や馬鈴薯等の収穫を終った広大な農地が寒々としていて「砂糖大根ビート」畑が青々と茂って続く。又広々とした牧草地帯には放牧された牛や馬が、楽しそうに草を喰べていて北海道ならではの光景であった。

網走刑務所あとの博物館を見物し、案内人の話を聞いて、昔の囚人の苦勞が身に沁みたる帰りは硫黄山に立寄り、硫黄の匂いで気分が悪くなる思いでした。夕暮の早い北国はもうたそがれていました。そして川湯温泉に向かい、最後の泊りに皆さんもゆっくりお風呂で疲れを流し、明日を楽しみに床についた。

悲恋秘藻の詩

宇都宮徳風作

白煙千載阿寒嶺

碧水萬年明鏡淵

風渡澄湖談玉藻

夷姫悲恋至今傳

練吟

メモ

漢詩テスト

○ 山行 杜 牧

遠く寒山に上れば石径斜なり

白雲生ずる処人家あり

車を停めて坐ろに愛す楓林の晩

霜葉は二月の花よりも紅なり

○ 問題

一、右の詩で、次の語の意味を簡単に述べなさい。

1、山行 2、寒山 3、石径

4、霜葉 5、晩

二、「白雲生ずる処人家あり」の意味は、どれがもっとも適切か符号で答えなさい。

1、目の下遙かに人家が淋しく見える。

2、こんな山の中にも人家がある。

3、俗世間を遠く離れたところにわたしは来ている。

4、人里遠く離れると、やはり村の生活がなつかしい。

三、この詩はどんな心境で歌っているのか。

1、自然に対し心がひかれる。

2、時の過ぎゆくのを惜しむ。

3、離れゆく故郷を懐しむ。

4、この世を避けて仙人になりたい。

四、「坐ろに愛す」の意味を十字以内で述べなさい。

五、結句の「霜葉」とはなんですか、詩中の語で答えなさい。

六、「二月の花」とはなんですか。

七、この詩は秋の季節と考えられる。秋のどんな時期に、また一日のどんな時刻に属しているのか。左の上下に例記した時期と時刻とを線で結びなさい。

初秋 朝

仲秋 昼

晩秋 晩

× × ×

○ 解答 (答を出した後で照合すること)

一、1やまあるき 2ものさびしい山

3石の多い小路 4霜をうけた木の葉

(ここでは楓の葉 5夕暮れ)

二、2 三、1 四、うっとりとながめる。

五、楓(楓林) 六、桃の花

七、晩秋—晩 (六問正解は優)

○ 教本が書き下し文であるので、漢詩の構成等の問題は除外したのでやさしい。

姉妹会・寒河江吟友会

二十周年大会に参加

秋たけなわの十一月四日、右会が行われ、

根岸会長(理事長代理)、加藤副会長、中村

愛岳(詩舞) 松井正風の四名が招待参加。

高橋庄岳会長の下、会員が一致団結、盛会

に行われました。私が印象に残ったのは、約

30名の少年少女による合吟でした。音程よし

節調よしよく揃い、無心で吟じる姿に胸打

たれました。高橋会長が小学校に呼びかけ、

校長御夫妻も会員とのことでした。青少年会

員育成のむずかしい現今、当会もそうありたい

と思えました。もう一つ、それは華道吟：

奥山深くわけ入って手にしたもみぢを配して

花が活けられ、その紅葉のすばらしさに山形

ならではの思いました。

寒河江の皆様は温情にふれ、初冠雪の山を

バックにした紅葉に見送られて無事帰着。

(母 籍)

舟渡舟岳 長柄支部より逗子A支部へ

(退 会)

村田佳山(上原) 矢板晴山(桜山A)

松井ユキ(逗子A)